

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|---------|------------|
| 事業所番号 | 4292400019 | | |
| 法人名 | 医療法人伴帥会 | | |
| 事業所名 | グループホーム椿高野(ユニット名山椿) | | |
| 所在地 | 雲仙市愛野町乙2314-5 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年9月3日 | 評価結果確定日 | 平成28年11月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4292400019-00&PrefCd=42&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社 医療福祉評価センター | | |
| 所在地 | 長崎市弁天町14番12号 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年9月27日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・談笑や触れ合いを大切にしながら入居者の自然な笑顔や言葉を引き出し、明るく温かい雰囲気の中で穏やかに過ごして頂けるよう支援しています。
 ・各スタッフが法人内の委員会(感染、接遇、事故防止等)に所属しそれぞれの担当分野の知識を深めると共に全スタッフへの情報共有に努めています。又、法人内の勉強会や外部の研修に参加し知識、技術の向上に努めています。
 ・ご家族には面会時にお話ししたり入居者の状態変化時や受診の報告等のこまめな電話連絡、定期的に便りを出す等し関係作りをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は緑に囲まれた広い敷地内にあり、清涼な空気の中青い空と白い雲がとても美しいところである。建物の四方から光が入るように窓は大きくとり、共有空間は天井が高く、季節の移ろいを眺めながらゆったりとした時間が流れている。木造家屋にて暖かく和らいだ雰囲気できつろげるように配慮されている。敷地内に同法人の介護老人保健施設があり、行事や緊急時等様々な場面で連携が図られている。温かい雰囲気の中で安心のある時間と、その人らしい暮らしを守ることができる環境の提供をするという理念が伺える。職員公募による「あなたらしく」というわかりやすい理念も掲げている。運営推進会議の行事報告も写真付きにて、利用者の楽しそうな笑顔が印象的である。10から成る委員会が積極的に機能しており、施設運営に尽力している。個々の職員とも面談の機会を持ち、意欲向上に向けての指導を行なっている。寝たきりの方にもアロマオイルにて臭覚を刺激し、心地良い暮らしの提供を行っている。看取りに関しても今回初めての取組にて、医療との連携を図り人生の終焉にふさわしい支援を行っていくとのことである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念の他、ホーム開設時に職員自ら考えたケア目標があり、入居者の思いや言葉を職員同士で伝え合い共有し、理念の実践に繋げている | 法人の理念と共にケア目標があり、月1回のユニット毎の会議や、3か月に1回の合同会議に於いて、新入職員には研修時に理念の共有を図り、日々の支援に反映している。理念の見直しが図られており、誰もがわかりやすくインパクトがある「あなたらしく」という理念が従来の理念と共に掲示してある。こちらの理念も職員公募によるものである。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の夏祭りには出店をするなど地域の人と交流する機会を設けている。 | 毎年8月に行われる町の夏祭りには、冷やしパインの店等を出店し、利用者も参加している。法人施設主催の秋祭りには地域住民の太鼓やバンドに職員も参加している。中学校の職場体験や看護学生の実習、教員研修の受け入れも行っている。利用者の中に元老人会会長の奥様が居り、老人会とは密な交流を行っている。 | 母体である法人や敷地内の法人施設との連携や老人会との交流はあるが、自治会や民生委員との交流等地域との広義な交流の取組を今後期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣中学生徒の体験学習、実習生等を受け入れ、認知症介護の実際を体験して頂くことで地域に発信をしている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 写真付きの報告書を用いホームの取り組みを見て頂き意見を頂いている。また会議ではホームでの昼食をお出ししアドバイスを頂いている。 | 運営推進会議では、職員の接遇や挨拶運動の推奨等の内部研修や、避難訓練の報告を行い「利用者の為に」と励んでいる姿を伝えている。また行事報告は職員が持ち回りで担当し、写真付きの広報誌を作成している。利用者の楽しそうな笑顔が掲載されており、日々の生活が手に取るように伝わってくる。老人会会長や地域包括支援センター職員の意見等活発に話し合われている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営についての質問等、介護保険課の職員とも日頃から連携を取り、協力体制が取れている。 | 利用者の介護保険の更新時には、介護支援専門員が介護保険課に赴き、管理者は広域圏域と密な連携を図っている。グループホームの地域密着型の研修や実地指導の研修へも参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人内の研修を通じて学ぶ機会を持ち、常にそのケアが身体拘束に繋がらないか話し合うよう努めている。玄関の施錠についてはご家族ご本人への説明のもと行っている。又解除については検討を続け今後取り外せるよう取り組んでいきたい。 | 月1回法人内で行われる身体拘束廃止委員会に参加し、報告書を回覧し職員に周知している。事例をもとに身体拘束のデメリットは職員が理解している。玄関には来訪や出入りを告げるチャイムが付いているが、防犯や安全性を考慮し同意を得て、やむを得ず施錠している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束廃止委員会を中心に高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設けている。日頃から虐待とみなされるような発言や行動がないよう防止につとめている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在入居者の方においても成年後見制度を利用されている方がおり、日頃から後見人の弁護士共連携がとれており制度についての理解を深めている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は事業所のケアに関する考え方や取り組み、対応可能な範囲についても、資料や現場を見て頂く等の手段で十分に説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族には、面会時や介護計画の説明時等に意見を伺うようにしている。また施設入口に意見箱を設け、気軽に意見を伺う環境を作っている。 | 家族会は年に1回行っており、ご家族の参加率も良い。面会時にご家族の意見を聞き、意見箱の設置やアンケートも行っている。利用者からは日々の会話から意向を汲み取っている。帰宅願望がある利用者には定期的に自宅へ同行している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者は日常的に訪問もあり日頃から意見を汲み取る体制にある。また年二回の職員個人面談もあり意見提案を行なっている | 事務長が年2回、管理者が年1回職員の個人目標を元に個人面談を行っている。また日々の業務の中でも職員の意見を聞き、仕事に対する意欲を向上するような指導を行っている。行事報告の広報誌や接遇の標語、ヒヤリハットの再発防止策、台所の日よけ等職員の積極的な意見が施設運営に反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は毎日現場に来て状況把握に努めている。法人内に9つの委員会があり、働く環境を整える委員会もあり、ストレスをなくしやりがいのある環境づくりに努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は、法人内外での研修参加にも協力的である。教育委員会があり委員は職員の力量を鑑みながら研修参加できるようにしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 島原半島および雲仙市のグループホーム連絡協議会に加入しており、日頃から連携や情報交換ができています。管理者は協議会内で役員としても活動しており、研修会の実施等の関わりをしています。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ケアマネージャー、管理者のどちらかが事前に会いに行く時間をつくり、ご本人の様子や表情等を感じ取りながら、安心してお話が出来る様にしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に見学に来て頂いたり、ご家族やご本人とのコミュニケーションを大切にすることで、意見や要望を聞き、サービスの提供に繋げている。又、話しやすい雰囲気づくりをしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前の情報シートを確認し、ご本人やご家族との面談でアセスメントを行ったり、関係機関からも意見を頂きながら必要なサービスが提供できるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に暮らすという意識を持ち、教え合ったり励まし合いながら生活を共にし、信頼関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様との連絡を密に取りつつ、様々な報告相談をしていく中で、ご家族様の気持ちを聞きながらご本人と良い関係が築けるようにしている。又、イベントへの参加等協力して頂いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会時にはゆっくりと過ごして頂くよう雰囲気づくりに心掛けています。又、季節のお便りを書いたり受け取ったりして、関係を築けるようにしています。馴染みの美容室の方に来て頂いたりして馴染みの方が出入りしやすい環境を整えている。 | 誕生日にはご夫婦揃って、以前よく利用していた宿での食事会や、父の日には好物のうなぎ寿司の店に同行したりと慣れ親しんだ場所への支援を行っている。元同僚との本の貸し借りの来訪もある。各居室の扉に電灯の灯りと木の表札が掛けてあり、自宅の玄関の作りとなっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士が上手く関われるように、スタッフが間に入りながら関係づくりをしている。合同レクリエーションや食事会、行事を通じて協力しあったり、話ができるよう努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も相談を受けた場合は関わり合えるよう努めている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人の希望や意向を日々の会話の中から汲みとれるよう努めている。又、生活歴やご家族の話をもとに検討し支援している。 | 日頃から本人や家族との会話の中から希望、意向の聞き取りを行っている。墓参りや法事、選挙に行くなど支援につなげている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族にこれまでの生活について聞いたり情報提供書を参考にして知り得た情報はスタッフ間でも共有し把握できるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の様子、状態変化等は介護記録や申し送りに記載している。スタッフ間でも口頭で申し送りし合い現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月、担当者が評価を行いご家族にも面会時や電話でお話を聞き介護計画を作成している。 | ケアマネージャーのほかに利用者の計画担当者がおり日頃の様子からニーズを拾い具体的に介護計画につなげるよう作成している。職員全員がモニタリングをし、連携して介護計画の作成を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 各入居者の毎日の介護記録に記載している。気づきや対応の工夫なども分かりやすく記載し情報共有に努めると共に介護記録の見直し、今後の対応に活かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 「家に帰りたい」と、外へ行きたがる方に対しドライブや外食し気分転換を図って頂いたり、その時のニーズに対応できるよう取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 馴染みの美容室やお店に買物に出掛けたり、婦人会の方やご近所の方と触れ合える様な場の提供やこちらから訪問を行い、いつまでも地域との繋がりを保てる様に努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人・ご家族の希望を尋ね、母体の医療機関や皮膚科・歯科・眼科受診が出来るように支援を行っている。 | 利用者や家族の意向により希望の医療機関は自由に受診が行える。法人の医療機関や各医療機関の連携を行い、家族にその都度報告し支援を行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の看護師による、健康チェック時に状態変化がある入居者の報告・助言を頂き、必要な場合は受診をするようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時や面会時に病院での様子や状態を病院関係者と情報交換を行っている。又、SW等と毎週ミーティングを行い、関係者との関係作りや早期に退院できる相談を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 早い段階でご本人やご家族の意向を受け、職員と医師が連絡を取り、ご家族とも十分に話し合いを行った上で納得して最期を迎えられる様、出来る限りのケアが受けれるように取り組んでいる。 | 入所時に看取り介護についての同意書を取り交わしている。現在看取りに向けた利用者があり、医師と連携して支援が行われている。緊急時の対応マニュアルがあり必要に応じて備品類も整えている。職員も安心して支援が行える体制が整えられている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルの作成を行っており、定期的に見直しをしている。又、同法人の介護老人施設とも協力し、応急手当の講習会や避難訓練を行い、実践力を身につけている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | マニュアルと連絡網があり、スタッフや消防機関・地域の方と連絡が取れるようにしている。定期的に自主避難訓練(消防立ち合いも含む)を行い、実践できるように努めている。 | 災害ごとに応じたマニュアルがある。職員全員が防災意識が高くすぐ率先できる訓練を行っている。法人全体や地域の消防団との訓練を行い協力体制を整えている。食料品や備品も整えて災害時に備えている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの話しに耳を傾け、その方の意見や主張を尊重した対応を心掛けている。 | 接遇の研修を定期的に行っており、職員間も利用者に対する声かけに配慮した支援を行っている。居室も目隠しなどし、プライバシーが守られる環境を整えている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人が家族や知人へ連絡を取りたい時には、電話や手紙などを利用し、いつでも連絡が取れるよう支援できている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | いつでも一人ひとりのペースに合わせ、ご本人の希望を把握して支援することを心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の希望があれば、美容室まで出掛けたり、また美容師を施設に招いて、カットしてもらっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの食事の好みを把握し、その方にあつた食事形状で食事を提供する事が出来ている。また、食事の下ごしらえを手伝ってもらったり、食器を拭く手伝いをしている。 | もやしの根切りや米を研ぐなど簡単な作業をしている。キッチンが共有スペースの中央にあり調理している様子や匂いも利用者と共に楽しめている。季節の食材を取り入れたり、希望にあわせ外食も楽しんでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食後、摂取された食事・水分量をカルテに記入する事で、一人ひとりの栄養バランスを把握できている。少ない時には、おやつを調整したり、水分を多く摂って頂くようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 介助が必要な方には、ブラッシングや舌磨き、マウスウォッシュなど使用し、ケアを行なっている。自分で出来る方には、声掛け見守りし仕上げ磨き介助を行なっている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 各居室にトイレがあり排泄チェック表を活用し、身体機能に応じてパット類、布パンツで対応。時間を見て声掛けや誘導を行い、自然な排泄が出来るように取り組んでいる | 利用者一人ひとりの様子観察をし、排泄チェック表を用い職員が日々状態を把握している。オムツから紙パンツに移行するなど職員が連携して排泄の自立の支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 繊維質の多い食材やバナナ、ヨーグルト類の乳製品など腸の動きが良くなるもの、水分を多めに摂ってもらえるように支援している | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 個人のタイミングを見て、声掛けし入浴して頂けるよう支援している。菖蒲湯、柚子湯等で季節を感じてもらえるよう工夫している | 入浴回数は週2～3回であるが必要に応じいつでも入浴ができる環境を整えている。隣接する法人内施設の機械浴利用も可能である。個別のシャンプー、リンスも利用でき季節に応じた入浴も楽しめるよう工夫されている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人のペースや健康状態、疲れなど状態に応じ休息の声かけをし希望に添った支援をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の確認はスタッフ2名で行い、服薬の支援に努め理解できている。服薬後、症状や変化があった時は主治医に報告し、相談指示を受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食器の下膳、食器拭きや布巾を干したりたんだり又は調理の下ごしらえの手伝いをして頂くことでその人に合った役割を持ち、楽しんで頂ける場面作り等を支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご本人の希望にそって行きたい場所へ外出、外食をしている。ご家族に協力を頂き、自宅帰省等も支援している。 | 日頃から本人、家族の要望を聞き外出支援につなげている。墓参りや知人の美容室に行ったり、誕生会では家族と協力して外食を楽しんだりしている。定期的な通院介助の支援も行っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 預かり金があり、いつでも希望に応じて使用できる。お金の管理ができる方は、所持されており、必要時、支払って頂いたり、使えるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の希望に応じて、電話をかけたり、手紙を書き、やり取りができるようしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の写真を展示している。照明や温度、空調管理、観葉植物や雑貨を置き、居心地の良い場所作りを支援している。 | 天井が高く自然光を取り入れ、窓から見える畑や木々の季節の変化を楽しんだり、室内には季節の花や装飾がされている。調理をする様子やにおい、アロマを用いたりリラックスできる香りなど利用者が居心地よい環境を整えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 個々に応じて、個室でご本人のペースで過ごして頂いたり、リビングでテレビを見たり、他入居者の居室を訪れ、会話ができるように工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人の馴染みのあるものや写真を飾ったり、私物を置いたり好みのお物を活かせるように工夫している。 | 窓からは季節の移り変わりを楽しめ、利用者の体調に合わせた空調が整えられている。馴染みの音楽が流れ、写真やマリヤ像、位牌など利用者の大切なものも置かれ、居心地のよい環境が整えられている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 必要な方については、説明書きをしてご本人がわかるように支援している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|---------|------------|
| 事業所番号 | 4292400019 | | |
| 法人名 | 医療法人伴帥会 | | |
| 事業所名 | グループホーム椿高野(ユニット名椿高野) | | |
| 所在地 | 雲仙市愛野町乙2314-5 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年9月3日 | 評価結果確定日 | 平成28年11月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku_ip/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosvCd=4292400019-00&PrefCd=42&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社 医療福祉評価センター | | |
| 所在地 | 長崎市弁天町14番12号 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年9月27日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・談笑や触れ合いを大切にしながら入居者の自然な笑顔や言葉を引き出し、明るく温かい雰囲気の中で穏やかに過ごして頂けるよう支援しています。 ・各スタッフが法人内の委員会(感染、接遇、事故防止等)に所属しそれぞれの担当分野の知識を深めると共に全スタッフへの情報共有に努めています。又、法人内の勉強会や外部の研修に参加し知識、技術の向上に努めています。 ・ご家族には面会時にお話ししたり入居者の状態変化時や受診の報告等のこまめな電話連絡、定期的に便りを出す等し関係作りをしています。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念の他、ホーム開設時に職員自ら考えた独自の理念があり、入居者の思いや言葉を職員同士で伝え合い共有し、理念の実践に繋げている | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の夏祭りには出店をするなど地域の人と交流する機会を設けている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣中学生徒の体験学習、実習生等を受け入れ、認知症介護の実際を体験して頂くことで地域に発信をしている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 写真付きの報告書を用いホームの取り組みを見て頂き意見を頂いている。また会議ではホームでの昼食をお出ししアドバイスを頂いている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営についての質問等、介護保険課の職員とも日頃から連携を取り、協力体制が取れている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人内で研修や身体拘束廃止委員会に参加し身体拘束をしない取組をしている。玄関の施錠についてはご家族様ご本人の説明のもと行っているが、介助についても検討を続けている | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束廃止委員を中心に高齢者虐待防止法について学ぶ機会をもうけたり、日々の言葉掛けやケアについても意見を出し合い、防止に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在入居者の方においても成年後見制度を利用されている方がおり、日頃から後見人の弁護士共連携がとれており制度についての理解を深めている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は事業所のケアに関する考え方や取り組み、対応可能な範囲についても、資料や現場を見て頂く等の手段で十分に説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族には、面会時や介護計画の説明時等に意見を伺うようにしている。また施設入口に意見箱を設け、気軽に意見を伺う環境を作っている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者は日常的に訪問もあり日頃から意見を汲み取る体制にある。また年二回の職員個人面談もあり意見提案を行なっている | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は毎日現場に来て状況把握に努めている。法人内に9つの委員会があり、働く環境を整える委員会もあり、ストレスをなくしやりがいのある環境づくりに努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は、法人内外での研修参加にも協力的である。教育委員会があり委員は職員の力量を鑑みながら研修参加できるようにしている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 島原半島および雲仙市のグループホーム連絡協議会に加入しており、日頃から連携や情報交換ができています。管理者は協議会内で役員としても活動しており、研修会の実施等の関わりをしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談を行い、その方の生活状況を把握し、困っている事、不安に思っている事、求めていることを理解し安心して生活出来る様環境、関係作りを行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前面談を行い、今までのサービス利用状況、家族の介護の苦勞、不安、要望に耳を傾け、傾聴し関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時に本人、家族の思いや状況を確認し、ご本人に合った支援を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 支援する側、される側という意識をもち、お互いに協力して生活できる環境や関係づくりに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人の日常生活を細目に報告、相談しながら支える様努める。面会、外出、電話での会話など家族との関係が途切れないよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの場所への外出、地域社会との関係、環境づくりを行っている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士が楽しく過ごせる様、場を提供したり、職員との関わり合い、助け合える様な支援に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても、誕生日や敬老の日のお祝いに出向き、これまでと変わらぬ関係を大切にしている。ご家族からの相談も積極的に関わりを持てるよう努めている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で、ご本人の思いや希望を汲みとっている。又、困難な場合には、過去の生活歴やご家族の話をもとに本人本位に検討し支援している | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 情報提供書やご本人、ご家族からこれまでの事を聞き、把握に努めている。また、スタッフ間の情報共有を大切にしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の介護記録への記載や申し送り等を利用し、状態変化があれば記載したりし、日々現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者がそれぞれに評価を行い、面会時にご家族とも話をした上で会議で話し合い、介護記録を作成、意見を反映できるようにしている。遠方のご家族には電話で意見を聞くようにしている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日、個別の記録に記載し、勤務に入る際は申し送りを行い、情報の共有に努めている。、次回のケアプランに活かせるように工夫している。介護記録の見直しにも活用できている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 帰りたいと言われる入居者様に対し、付き添い外出をしたり、美容室に行くことが難しい方の為に訪問美容をお願いしたりと出来る限りニーズに応えられるよう取り組んでいる | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 本人の馴染みの美容室へ行けるようにサポートを行っている。地域の方とも買物、イベントへ行き関わりを絶やさないように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 母体の医療機関及び、ご本人や家族の希望に合わせて歯科、眼科受診ができるよう連絡を取り支援している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | スタッフ間の申し送りや、週1回の看護師による健康チェック時に個々の様子を報告、助言を頂き、必要時には受診ができるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時、面会訪問し病院での様子や情報交換している。又、SW、連携室等と毎週ミーティングをし、関係づくりを行い、早期に退院出来るよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご本人や家族の意向を踏まえ、ご本人の容態に応じて職員と医師が連絡を取り、十分な話し合いを行い、安心して最期を迎えられるよう ホームで出来るケアに取り組んでいる。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルに応じて対応が出来るようにしている。系列の介護老人保健施設とも協力し、応急手当等の講習会、避難訓練時にも初期対応が出来るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | マニュアルや連絡網があり、スタッフや消防機関、地域の方と連絡が取れるようにしている。避難訓練(年1回消防立会い)又、自主避難訓練(2ヶ月に1回)も実施している。法人内に防災委員会があり職員は防災についての会議、勉強会を行っている。また地域消防団の方に内部視察に入ってもらい適切なアドバイス等を受け災害に備えている | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人前であからさまな誘導や声かけはしないよう意識づけている。又、本人のプライバシーはキーパーソン以外には話さないようにしている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者に応じて声かけし、本人が選択したり決める場面をつくるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れは基本的に決まっているがその日、その時の本人の様子を見て、個々の状態に合わせてながら対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 馴染みの化粧品等で自ら身だしなみを整えられている。外出時にも声かけをして気を配っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食材の下拵え等、出来る事はして頂いており、会話の中から食べたい物など汲み取り提供している。又、旬の物をメニューに取り入れている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事、水分量など記録しチェックしている。水分の足りない方へは、好みの物を提供している。系列の介護老人保健施設のメニューを頂き、参考にしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ご自分で出来る方は、声かけ、見守りをして必要に応じて、仕上げ磨きを行っている。出来ない方は毎食後、口腔ケアを行いながら一人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご本人への排泄確認を行っている。また、声掛けを行いながら、様子を伺い気がけるようにしている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々に応じて下剤調整や乳酸菌などの摂取を促している。マッサージも取り入れている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 定期的な声掛けを行い、ご本人の体調や希望に合わせて入浴されている。入浴時には、ご本人の負担無い程度で入浴を楽しまれ喜ばれておられる。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | リビングで過ごされたり、居室で過ごされたりとお一人お一人の過ごしやすい空間を作るよう行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方された薬で変更になった時、継続の時も内容を確認している。服薬後の観察も行い、変化が見られた時はDr. へ報告を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご本人の希望にて、お買い物や外食へ行き喜ばれて気分転換ができています。個々に合った役割を見極め行われている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族付き添いのもと外泊されたり、希望があれば外食など、その都度対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を所持されている方もおられる。個々に応じて職員による金銭管理を受けられている。買い物や外出等必要時に自由に、使える様に支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙やハガキ、電話を利用してご家族等への近況報告が出来るように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 音や光、室内温度を調整する等して、不快にならないよう居心地の良い環境「空間」づくりに努め支援している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室やリビング等に椅子を準備し、一人ひとりが自由に利用しゆっくりと過ごして頂けるよう、工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人の使い慣れた物や私物があり、いつでも自由に使用できるようにしている。居室内は、ご本人の動きに合わせて移動しやすいよう配慮し居心地良く過ごせるように工夫している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の身体状態に合わせて「理解出来ること」「自分でできること」を考慮し、声掛けや説明をするなど自立に向けた支援に努めている。 | | |